

moids

2004年、IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 第5期生の
斉田一樹、三原聡一郎、むぎばやしひろこ、の3人によって自然発生。

想像してみてください。

1+1=2である世界を。

今誰かがこの宇宙にリブートをかけ、再び宇宙が誕生しても、再び私はここに存在する。

なぜなら、この世界は決定されているから。

想像してみてください。

1+1=2でない世界を。

今誰かがこの宇宙にリブートをかけ、再び宇宙が誕生したら、私はここに存在しない。

なぜなら、この世界は決定されていないから。



ver.1 創発する音響彫刻

2006 2 月 IAMAS卒業製作展「テクノコード遊民の縁側」、IAMAS旧新校舎 (大垣)

2006 3 月 電気用品安全法によって消え逝く危険性があるもの展、ナンズカ (東京)

2006 10 月 大垣ビエンナーレ06、全昌寺大醒榭 (大垣)

2006 12 月 エマージェンシーズ#3、NTTICC(東京)

2007 7 月 いまからだ、青山スパイラル (東京)

ver.2 創発する音響構造

2009 6 月 コーデッドカルチャー展、ミュージアムクオーター (オーストリア、ウィーン)

2009 10 月 moids2.0 展、芳流庵 (日本、山口)

2010 8 月 電子芸術国際会議2010、クストヴェレイン (ドイツ、ドルトムント)

2011 4 月 聲音生物 聲音藝術展、新苑ギャラリー (中華民国、台北)

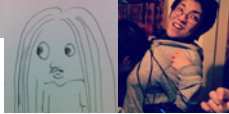
2011 9 月 シンプルインタラクション - 日本のサウンドアート展、ロスキレ現代美術館 (デンマーク、ロスキレ)

2012 3 月 サウンドアート 芸術の方法としての音 展、ZKM (ドイツ、カールスルーエ)

2012 10 月 オープンスペース、NTTICC (日本、東京)



三原 聡一郎



moids members

齊田 一樹

もいず
むぎことさいたとみはらのmoids小史

その後「moids」と呼ばれる活動は2004年のIAMASでの出会いを機に生まれたが、実はそれ以前に、何かの力に引き寄せられるように同じ場を共有していた。むぎことさいとは、1998年6月2、3日「クラフトワーク来日公演」(赤坂BLITZ)にて。むぎことみはらは、2003年7月19日「ソニック・パーセプション2003アルヴィン・ルシエ」(川崎市民ミュージアム)にて。さいたとみはらは、2004年2月27日「ブラッケージアイズ2003-2004」関連企画「Visual music for the silent film maker」(仙台メディアテーク)にて。在学時を実践的に過ごせたのは、ある指向性をほぼ同じ解像度で知り、ただ単に別の方法でアプローチしていたからだった。

入学早々の2004年6月、皆で訪れた国際会議「NIME」(静岡文化芸術大学)でムーグ博士は、楽器と演奏家が繋がる科学を超えたエネルギー場の存在を力説した。発生生物学のシュルドレイク博士による形態形成場(morphogenetic field)の言葉を借りた説明に刺激を受けた3人は、IAMAS以前の出会いの原因や些細な日常のシンクロニシティをこの場に結びつけて楽しんだ。そして共同作品名をm-oid(～のようなもの)の複数形 moidsと名付けた。頭の「m」はmorphogenetic、また非音楽家である3人をしてmusicの二重の意味を込めている。むぎこは現代思想、さいたは技術、みはらは芸術の側面から音を楽しみ、そしてその発生方法と生成される環境をも含んだ追究は自然発生した。

ver.1は2年の試行錯誤を経て2006年に物議を醸した共同修士制作として完成し、国内でいくつかの展示機会を得た。ver.2は2009～2013年まで国内外の現代芸術の場で展開された。2012年ZKMでの壮大なサウンドアート展覧会カタログは2017年に『サウンドアート—芸術の方法としての音』としてMIT PRESSから刊行予定である。諸事情でver.2への関わりが少なかったむぎこは次作の漠然としたやり取りだけのお別れだった。

2017年にさいたとみはらは制作を再開する。ver.3ではなくver.∞として構想している。全体を構成してきた48個と1024個の先は無限の概念しか残されていない。

その為に、更に極限までそぎ落とされた単一のmoidを実験し発見していく作業が始まる。



むぎばやしひろこ

デジタルハリウッド二期生、情報科学芸術大学院大学(IAMAS) メディア表現修士課程修了。

元エイベックス所属モデルから、エイベックスのデジタルコンテンツ・プロデューサーとして活躍後、IAMASを経て、2006年、アイティア株式会社を起業。代表取締役社長に就任。「特異性ある体験型メディアコミュニケーションの創造と価値ある貢献」を会社理念とし、体験メディア・プロデューサーとして活躍。

執筆	伊藤 りおり 岩田 豊嗣 國原 秀洋 久保田 健瑛 斉田 一樹 サエキ けんぞう 清水 尚樹 杉山 知之 高木 完 田中 信雄 服部 桂 鳩山 玲人 マリーニ 瞳 三原 聡一郎 吉岡 洋	写真提供	石田 直美 廣田 ふみ
編集	小西 七重 田中 信雄		
デザイン	國原 秀洋		
映像	長尾 陽介		
発行人	高木 完		